桔梗野小

関わり合い、考えを深め、解決する子の育成

～主体的に学び合う活動の工夫を通して～（３年計画の３年次）

校長　　吉田　朝子

１　研究主題について

(1) 学校目標具現化の立場から

本校の今年度の学校目標は、「自分を大切に　友だちや身の回りも大切にする子の育成」である。主体的に問題解決に取り組むためには、問いに向かって自分なりの考えをもつことが重要となる。自分の考えや立場を明確にさせることは、「自分を大切に」することにつながる。また、学び合いの場面で対話的活動を設定し、関わり合いながら考えを深めさせるには、「友だちを大切に」する態度の育成が不可欠である。よって、本主題に取り組むことは、学校目標の具現に資するものである。

(2) 研究の経過から

これまで、「関わり合い、考えを深め、解決する子の育成～主体的に学び合う活動の工夫を通して～」という研究主題で取り組んできた。導入段階では具体的な問いや視覚に訴える問題提示を行うことで、児童が問いを意識して主体的に学習課題に取り組むことができた。さらに、対話的活動において教師の声がけや学習形態の工夫をすることによって、児童の考えの整理、理由付けが促された。「書く」「話す」を適切に取り入れた振り返りでは、学び合いの積み重ねや思考の深まりが見られ、問題解決能力が向上した。

このように、関わり合いの中で児童の主体性と問題解決力は向上したものの、個々のもつ問いの把握と対話的活動における「話す」力の個人差への対応は未だ十分とは言えない。自力解決から対話的活動への展開の時間的比重、話し合う内容の焦点化などについて研究を進める必要がある。

そこで、今年度は３年計画の３年次として研究成果を生かしつつ、すべての教科・領域の実践において、新たな学びのわざ「自分の考えをもつ　自分の考えを説明する　友だちの考えを取り入れる」を生かした対話的活動と、問題解決へ迫るための効果的な指導のあり方について研究を進める。また、すべての通常学級において研究主題を目指す授業を公開することによって、目的意識をもって問題解決に向かう授業づくりに、学校全体として取り組んでいく。お互いの意見を大切にした対話的活動への取組のもと、考えの広がりや深まりとともに問題解決に向かう目指す児童像に迫っていきたい。

２　研究のねらい

関わり合いの中で、考えを広げたり深めたりして、主体的に学ぶ児童を育てるための指導の在り方を授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

教師の働きかけや発問を工夫して、関わり合いの中で考えを広げたり深めたりする授業を日常化することにより、主体的に問題解決に向かおうとする児童を育成することができる。

４　研究内容

(1) 主体的に問題解決に向かわせる指導の在り方。

ア　導入場面で、問いをもたせる課題（問題）提示の工夫。

イ　問題解決へ向かわせるための対話的活動の工夫。

(2)　「新学びのわざ３」への取組による主体的に学ぼうとする態度の育成。

(3)　学習用語などの掲示による、学習の手がかりになるような環境の整備。

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	5		全体会（研究の概要、研究主題及び内容、年間計画などの確認）
6	2	授業公開①算数　３年１組　教諭　田島　結希子	協議会なし、視点表のみ
6	１５	授業公開③算数　２年１組　教諭　國分　裕子	協議会なし、視点表のみ
7	１１	授業公開④算数　６年１組　教諭　吉田　千春	協議会なし、視点表のみ
9	1	授業公開⑤道徳　５年１組　教諭　大村　陽奈	協議会なし、視点表のみ
9	２０	授業公開⑥国語　１年２組　教諭　澤田　実希	協議会なし、視点表のみ

９	２７	第１回授業研究（要請訪問） 算数　２年２組　教諭　埒見　駿介	協議会あり
９	２８	授業公開⑦算数　３年２組　講師　中森　芳江	協議会なし、視点表のみ
１０	３０	授業公開⑧算数　１年１組　教諭　長谷部　幸恵	協議会なし、視点表のみ
１０	３１	第２回授業研究 国語　６年２組　教諭　金枝　成弥	協議会あり
１１	２１	授業公開⑨理科　４年１組　教諭　永田　柊子	協議会なし、視点表のみ
１１	２７	授業公開⑩保健体育　４年２組 養護教諭 井上 佳林	協議会なし、視点表のみ
１１	３０	授業公開⑪外国語　３年１組　教諭　桑田　勝護	協議会なし、視点表のみ
１	１５		全体会（成果と課題、来年度の確認）

(2)　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
４	２６	道徳科に関しての研修　担当：本校校長　吉田　朝子 県外研修報告会　担当：本校教諭　吉田　千春
５	２４	「救急処置とＡＥＤ実技練習」、一次救命処置、応急手当ての研修 担当：本校養護教諭　井上　佳林
５	２９	特別支援学級児童への理解深長、合理的配慮の在り方、通常学級における配慮 授業公開　楓学級　教諭　櫛引　恵 桔梗学級　教諭　川村　希代子
５	３１	個別の指導計画・支援計画について、生徒指導について 担当：本校教諭　櫛引　恵
６	１４	「通常の学級における特別な配慮が必要な児童への支援についての研究」 ～学びにくさのある児童の教育的ニーズの把握を通して～ 講師：白銀小学校　淡路　衣津季　先生
６	２０	水泳指導・プール使用に関しての研修　担当：本校教諭　金枝　成弥
７	１９	幼保こ小連携推進事業　こもれびの森保育園　公開保育参観
８	２３	県外研修報告会　担当：本校教諭　吉谷　恵理子 ICT 活用に関する研修　担当：本校教諭　桑田　勝護
８	３０	県学習状況調査の分析・考察
１０	１２	問題解決的な授業づくり　講師：教育指導課 竹井　亮　主任指導主事
１２	６	幼保こ小連携推進事業　桔梗野保育園　参観
２	１４	県外研修報告会　担当：本校教諭　大村　陽奈・永田　柊子・金枝　成弥

６　研究の成果

(1) 導入場面において、身近な題材や写真を用いたり言葉を隠したりして多様な仕掛けを行うことにより、興味を引き出し問題解決に向かわせることができた。対話的活動では、形態やワークシートを工夫することで、話合いの充実と思考の深まりが見られ問題解決力が向上した。

(2) 自分の考えを説明する際に、教師が意図してお互いの考えを補足させたり、柔軟な考え直しを促したりすることで、主体的な学びが深められた。

(3) 学習内容の掲示により前時の確認や問題解決の手掛かりにできた。また、高学年では掲示をもとにステップアップして「分からないことを、さらに自分で調べる」という、学びの広がりにもつなげることができた。

７　研究の課題

(1) 個人差を考えると、毎回、問題意識をもたせて同じスタンスで学習活動を行うのは難しいため、仕掛け作りの工夫を継続して行うとともに、対話的活動の際には、その目的を確認した上でペアやグループ、お散歩などの形態を効果的に取り入れ、授業展開していく必要がある。

(2) 自分で考えをもつことが難しい児童のためには手掛かりを工夫して、また、個々の考えの変容を把握できるワークシートを作成したりして、「学びのわざ３」の流れを確実に踏んでいける研究をしていく必要がある。

(3) 学年、学級の実態に応じて掲示場所や分量などを考慮して、集中を妨げないようにより学びやすい環境を目指していく必要がある。

（記入者　田島　結希子）